

令和8年度 事業計画策定に向けた

アンケート調査報告

特定非営利活動法人 CCL

対象：多職種の専門職（n=45）
令和8年4月

調査の背景と目的



調査の背景

令和8年度の事業計画策定にあたり、現場の専門職の視点を反映させることを目的として調査を実施しました。

「人材不足」や「多死社会」という地域の転換期における具体的なニーズを把握します。



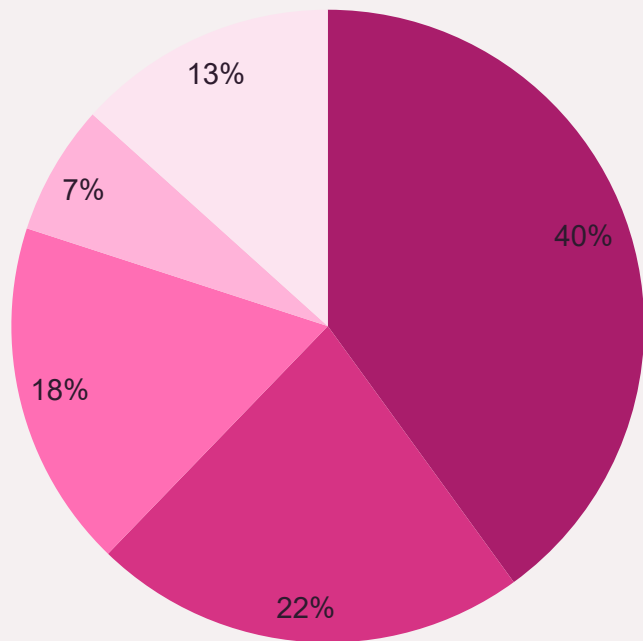
調査の概要

回答者数：45名（多職種）

薬剤師・看護師・保健師・ケアマネジャー・ソーシャルワーカー・医師・介護職・行政など、多職種の専門職が参加。

調査項目：市民公開講座テーマ、研修会テーマ、災害時応援体制、エンディング・ソングPJ

回答者の属性（職種別構成）



■ 薬剤師 ■ 看護師・保健師 ■ ケアマネジャー
■ ソーシャルワーカー ■ その他

薬剤師 18名 40%

看護師・保健師 10名 22%

ケアマネジャー 8名 18%

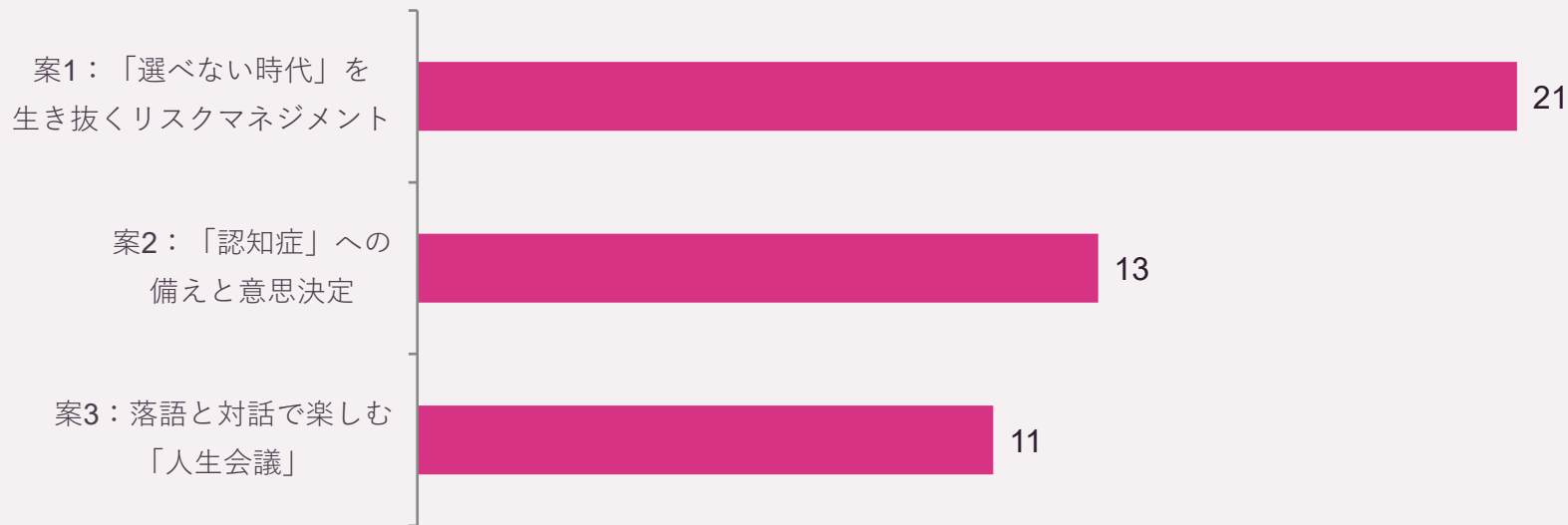
SW 3名 7%

その他 6名 13%

n = 45



市民公開講座：最も必要とされるテーマ



第1位：「選べない時代」を生き抜くリスクマネジメント（46.7%）

人手不足によりサービスが選べない現実を伝え、事前の備えを説くニーズが最多。



研修会で議論を深めたいテーマ



第1位：「最小限の連絡ルール」の検討（44.4%）

薬剤師層を中心に、効率的な連携による負担軽減を求める声が出た。

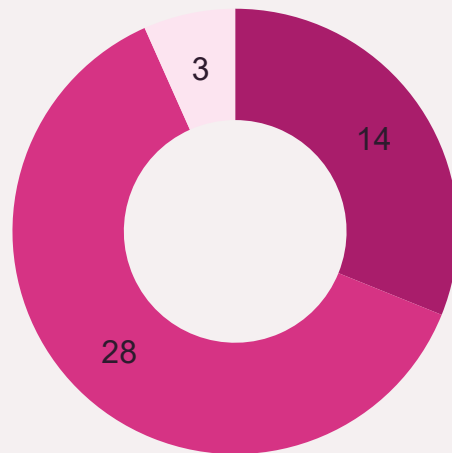


災害・感染症時の相互応援体制

93.3%

必要性を認める回答

42 / 45件



非常に必要（具体的なルール作り）
14件

必要（まずは顔の見える関係作り）
28件

その他
3件

圧倒的多数が有事の協力体制を求めており、具体的な仕組みづくりが次年度の重要課題です。

♪ エンディング・ソング プロジェクトへの協力意向

97.8%

協力を前向きな回答

44 / 45件

1

リーフレットの設置や市民への周知協力

22件 (48.9%)

2

具体的な活用方法を一緒に考えたい

11件 (24.4%)

3

担当利用者への紹介（モニター参加）

7件 (15.6%)

ほぼ全員が協力を前向きであり、周知活動や具体的な活用方法の検討を軸に展開できる見込みです。

まとめ・今後の方向性

市民公開講座

「選べない時代」のリスクマネジメントを最優先テーマとして企画

研修会

「最小限の連絡ルール」の策定を軸に、多職種の負担軽減に取り組む

災害・感染症対策

93.3%が協力体制を希望 — 顔の見える関係づくりから具体的なルール策定へ

エンディング・ソングPJ

97.8%が協力を前向き — 実効性の高いランドデザインの構築へ

現場の声を事業に反映し、地域の連携と備えを強化していきます。